

令和6年度 0歳児 年間指導計画 さきたま保育園

令和6年度　0歳児　年間指導計画				さきたま保育園		園長		副園長		担任			
年間目標	・一人ひとりの生活リズムで心地よい生活を送る。 ・思いや欲求を受け止められることで情緒の安定を図りながら、信頼関係、愛着関係を育てる。 ・安全で安心な環境の中で伸び伸びと遊び、色々な経験を重ねて、感覚の発達を豊かにし、身の回りの物事への興味、関心が持てるようにする。			健康安全災害	・視診、検温を毎日行い、健康的に過ごすために感染症の早期発見・予防に努める。 ・乳幼児突然死症候群の予防。 ・離乳食の進み具合やアレルギーを把握し、複数の職員で確認することで誤食予防をする。 ・玩具はこまめに消毒・点検し、安全に使用できるように環境整備を行う。			一年間の保育に対する自己評価					
期	1期（4月～5月）			2期（6月～8月）			3期（9月～12月）			4期（1月～3月）			
ねらい	・一人ひとりの生活リズムを大切にし、家庭との連携を図りながら、園生活に慣れるようにする。 ・保育士との応答的な関わり合いのなかで、安心して過ごし、信頼関係を築いていく。			・信頼する保育士などに欲求を受け止め、満たしてもらいながら情緒の安定を図り、愛着関係を深めていく。 ・快適に過ごせるよう、衛生面に配慮し、一人ひとりの体調を把握して水遊びや沐浴を行う。 ・興味のあるものや場所での探索活動を楽しむ。			・寒暖差や気候、体調に留意し、戸外遊びや探索活動をして自然に触れる。 ・一人ひとりの発達に合った全身運動を楽しむ。 ・保育士や他児との関わりを喜び、安心できる環境の中で、自分の欲求を表情やしぐさ、片言で表そうとする。			・安定した環境の中で、探索活動を通して様々な人や物に触れながら、好きな遊びを楽しむ。 ・保育士や他児と関わり、喜びを感じながら、自分なりの表現で、気持ちを相手に伝えようとする。			
月齢・年齢	3か月～6か月未満	6か月～9か月未満			9か月～12か月未満			1歳～1歳3か月未満			1歳3か月～2歳未満		
子どもの姿		・離乳食を食べ始める。 ・「まんま」など、喃語を盛んに話すようになる。 ・特定の人を追ったり、抱っこされると喜んだりする。 ・両腕で上半身を支えたり、少しずつ支えのいらないお座りをするようになる。			・食べることに意欲的になり、こぼしながらも手づかみや指でつまみ、自分で食べようとする。 ・つかまり立ちや伝い歩きなど歩行への意欲を持ち、活動が活発になる。 ・しぐさや表情、片言で保育士に欲求を伝えようとする ・見慣れない人が近づいたり、声をかけたりすると泣くことがある。（人見知り）			・歯茎や乳歯を使って噛んで食べる。 ・伝い歩きから一人歩きが出来るようになる。 ・つまむ、叩く、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ ・「ママ」「ブーブー」など一語文を話すようになり、見つけた物や欲しい物などを指さして伝える。 ・保育士からかけられた簡単な言葉を理解し、行動しようとする。			・一人歩きが安定し、小走りで歩いたり、段差のあるところを歩いたり、跳び下りるなどの上下の運動をしようとする。 ・感情表現が豊かになり、自分の欲求を通そうとする。 ・手指の細かいコントロールが進み、積木やブロック積みをする。 ・他の園児へ関心を示し、持っている物を欲しがったり、触ろうとする。		
養護 （生命の保持・情緒の安定）		・一人ひとりの発達状態に合わせて離乳食の開始や内容を検討する。 ・表情や喃語に応答的に関わることで、安心して自分を表現する。 ・母子免疫が切れ、感染症にかかりやすくなることを念頭に体調の変化に十分注意する。			・一人ひとりに合わせて、手づかみやスプーンで食べる事を経験する。 ・特定の保育士と愛着関係を築き、不安や甘えを受け止められ、安心して過ごす。 ・手洗いや消毒をし、感染症予防をする。			・食後は口の中に食べ物が残らないよう水分を摂る。 ・要求をしっかりと受け止め、言葉やしぐさで応答的に関わり、伝わる喜びにつなげる。			・動きたい気持ちを受け止め、十分に体を動かせるようにする。 ・伝えたい気持ちを受け止められ、安心して欲求を表す。		
教育 （三つの視点）		・喃語や表情を受け止められることで、身近な保育士に親しみを持つ。 ・お座りや腹ばいなど伸び伸びと身体を動かして遊ぶ。			・興味を持ったものに視線を向けたり、指さしをしたりして、言葉と一致させようとする。 ・音楽や歌に耳を傾けたり、リズムに合わせて体を動かして遊ぶ。								
教育 （健康・人間関係・環境・言葉・表現）													
								・指先を使った細かい動きを楽しむ。 ・保育士との安定した関係の中で、言葉の語尾をまねしたり自分なりの表現をしたりする。 ・絵本や物を見て指さし、興味のあるものや知っているものに関心を示す。			・周りの人を意識し、関わろうとする意欲を持つ。 ・興味を持った遊びを、保育士や友達と一緒にやってみようとする。 ・身の周りの事に興味を持ち、エプロンをつける、手を拭くなど自分でしようとする意欲が出る。		

環境構成 援助 配慮		<ul style="list-style-type: none"> ・人見知りや後追いなどには、担任間で連携して心の安定を図っていく。 ・楽しめるように、玩具は動きのあるものや音が鳴るものを用意し、こまめに拭くなどして衛生面に配慮する。 ・保育士との触れ合いを通して、人と関わる心地よさを感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくり楽しめる玩具や環境を設定し、一人遊びが十分に出来るようにする。 ・保育士と楽しさを共有し、喜びを感じられるように、安心できるような言葉掛けをする。 ・スキンシップを取りながら、はいはいや四つ這い、座るなど姿勢を変化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの指さしに一つ一つ言葉をかけて受け止め、関心が深められるようにする。 ・自分で食べたい気持ちを尊重しつつ、楽しく食べられるように椅子の高さや種類を配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりに、より関心が持てるよう、互いの気持ちを保育士が代弁するなどの仲立ちをしていく。 ・自分でやりたい気持ちが十分に満たされるよう環境を整える事で、満足感が得られるようにする。
------------------	--	---	--	---	---

月 齢 ・ 年 齢	3 か 月 ～ 6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 9 か 月 未 満	9 か 月 ～ 1 2 か 月 未 満	1 歳 ～ 1 歳 3 か 月 未 満	1 歳 3 か 月 ～ 2 歳 未 満
子育て支援 （保護者支援）		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を密を大切にし、体調管理や睡眠、離乳食の進みなどの情報を共有する。 ・「ともに育てる」という姿勢を持ち、保護者の思いを受け止め、信頼関係を築いていく。 ・健康状態とともに感染症の流行などの周囲の状況を伝え、感染症の早期発見や拡大防止について理解、対応が出来るようにする。 	<div></div> <div></div> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食については家庭と同じ援助ができるよう、進み具合や食べ方の情報を共有し、家庭と園ともに進めていく。 ・発達には個人差があることを伝え、発達や育児の不安などを話が出来るよう保護者とのコミュニケーションを図る。 	<div></div> <div></div> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でも試す事ができるよう、園での食事の様子や工夫を伝えていく。 ・園での安全対策を伝え、家庭での環境の見直しの材料となるようにする。 ・自我の芽生えは成長の大切な一つだということ を伝え、悩みをしっかりと受け止めていく。 	<div></div> <div></div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできた満足感が意欲につながることを伝え、身の回りのことなど、自ら取り組む意欲をさりげなく援助する等、関わり方を伝える。
食育		<ul style="list-style-type: none"> ・色々な食材に少しずつ慣れ、食べる事を楽しむ。 ・授乳は目を合わせてゆったりとした環境で、安心して飲めるようにし、保育士との信頼関係を育む。 ・離乳食で、初めて口にする食材は家庭で試してもらい、アレルギーなどの有無を確認する。 	<div></div> <div></div> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で、「おいしいね」「モグモグ」「かみかみ」などの会話を楽しみながら食事をし、食べる意欲を持つ。 ・生活リズムを整え、保育士と一緒に、美味しく食事をする。 ・少しずつ歯ごたえのある食材を取り入れ、よく噛むことを身に着けていく。 	<div></div> <div></div> <ul style="list-style-type: none"> ・手づかみやスプーンを使い自分で意欲的に食べようとする。 ・すぐに飲み込まずによく噛むよう「かみかみ」「モグモグ」「ごっくん」などの声かけをしながら咀嚼を促していく。 ・食事の時間を喜び、進んで椅子に座ったり、保育士を真似て挨拶をしようとしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児食へ移行し、色々な味に慣れる。 ・自分で食べたい気持ちを尊重し、見守りながらも食器の使い方や食器の持ち方を丁寧に伝えていく。 ・食材の絵本を見たり、実物に触れる機会を作り、興味を持つ。
長時間保育		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の中で、気持ちや不安を受け止めてもらいながら、安心して過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な環境の下で、担当保育士と安心して触れ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児交流を図りながら、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとした時間を過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの体調を把握し、担当保育士と連携していく。
期	1 期（4 月～5 月）		2 期（6 月～8 月）	3 期（9 月～1 2 月）	4 期（1 月～3 月）
年齢別研修	テーマ 「すこやかな育ち」 サブテーマ「保育の質の向上」 内容：「子どもを尊重する保育」 設定理由：昨年度の年齢別研修で、保育士による不適切保育を未然に防ぐための研修を行った。子どもを尊重することや子どもの人権擁護についての意識を高め、自分自身の保育を振り返る機会になり、保育士等の意識改革に成果をあげることができた。さらに多くの職員が研修を受けることで、より質の向上につながると考えるため、今年度も継続して研修を行っていきたい。				
自己評価					

令和6年度 1歳児 年間指導計画 さきたま保育園

令和6年度 1歳児 年間指導計画 さきたま保育園				園 長		副 園 長		担 任	
年間目標	・安心できる保育者のもとで、楽しく安定した園生活を過ごす。 ・快い生活リズムの中で、食事や排泄、着脱など身の回りのことに興味を持ち、自分でしようとする。 ・探索活動を十分に楽しみ、身近なものや言葉への興味・関心が育つ。 ・保育者の応答的な関わりによって、安心して自分の気持ちや欲求を表現する。		健康 安全 災害	・視診・検温を実施し、健康的に過ごすために早期発見、予防に努める。 ・子どもたちの興味関心を把握し施設内の環境整備を行う。 ・防災・防犯訓練へ参加し、意思向上に取り組む。		一年間の保育 に対する自己 評価			
期	1期(4月～5月)		2期(6月～8月)		3期(9月～12月)		4期(1月～3月)		
子どもの姿	・新しい環境に戸惑い、不安いっぱい泣き出す子もいる。 ・少しずつ新しい環境に慣れ、好きな遊びを見つけて楽しむようになる。 ・戸外遊びを楽しみ、春の自然に触れる。		・生活リズムに慣れ、一日の流れに沿って生活する。 ・行動範囲が広がり、自然物や身近なもの、遊具などに興味を持つ。 ・喃語や片言を盛んに話すようになり、自分の思いを伝えようとする。 ・暑さから食事が進まない子もいる。		・保育者や友だちに親しみ、関わりながら遊ぶ。 ・友だちの傍で真似をして遊んだり、関わったりする一方で、物や場所の取り合いが増える。 ・周囲の環境に興味をもち、自分の思いを言葉や仕草で伝えようとする。		・保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ・保育者に誘われてトイレに行き、排泄しようとする。 ・保育者や友だちと簡単な言葉でやり取りをしながら遊ぶ。 ・保育者や友だちと見立て遊びやつもり遊びを楽しみ、人や物への関心が高まる。		
ねらい	・新しい環境や園生活のリズムに慣れる。 ・一人ひとりの生活リズムに合わせた生活環境のもと、安心して快適に過ごす。 ・保育者の温かい関わりによって愛着関係を育む。 ・戸外で身体を動かしたり、探索したりすることを楽しむ。 ・保育者との関わりや好きな遊びを楽しむ。		・快適で心地良い環境の中で、保育者に見守られながら楽しく過ごす。 ・保育者や友だちの言葉に興味を持ち、真似たりやり取りしたりして楽しむ。 ・食事や着脱などの簡単な身の回りのことに興味を持ち、保育者と一緒にやってみようとする。 ・保育者や友だちと体を動かす遊びを楽しむ。 ・水・砂・土など身近な自然に触れ、夏の遊びを楽しむ。		・思いやこだわりを保育者に受け止めてもらうことで、心地良く生活する。 ・簡単な身の回りのことを保育者と一緒にまたは自分でやってみようとする。 ・保育者や友だちと言葉を使って簡単なやり取りをして楽しむ。 ・秋から冬の自然に触れ、季節の変化を感じる。		・快適な環境の中で、寒い季節を健康に過ごす。 ・冬の自然に触れ、元気に体を動かして遊ぶ。 ・保育者に見守られながら簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。 ・友だちへの関心が高まり、保育者の仲立ちのもと、自分から関わろうとする。 ・様々な遊びを通して、新たなことへ興味を持ち、言葉でのやり取りをしながら、試したり使ったりして遊ぶ。		
養護 (生命の保持・ 情緒の安定)	・安全で清潔な環境を整え、快適に過ごせるようにする。 ・一人ひとりの発育・発達状態や生活リズムを把握し、無理なく新しい生活に慣れていけるようにする。 ・温かなやりとりやスキンシップを心掛け、安心して過ごせるようにする。		・体調の変化に十分留意し、水分補給や休息を取りながら、梅雨時期や暑い夏を健康に過ごせるようにする。 ・水遊びや戸外遊びの後にはゆったりと過ごすなどして、静と動の活動バランスや調和をとる。 ・個々の気持ちに寄り添い、継続的な心の安定を図る。		・寒暖差に留意し、室温・湿度の管理、衣服の調節を行い快適に過ごせるようにする。 ・食事や排泄、着脱などの身の回りのことについて、意欲的に取り組めるよう、一人ひとりにとって適切な援助を心掛ける。 ・信頼を基盤に自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。		・健康に留意した室温や湿度を保つようにする。 ・冬の健康や保健衛生に留意し、感染症の予防や早期発見に努める。 ・自分でやろうとしたことやできたことを認め、達成感を積み重ねることで、自信や意欲に繋げていく。 ・遊びの楽しさを個々と共有しながら、主体的に取り組む姿勢を育んでいけるように関わる。		
教育 (健康●・人間関係◆・環境▲・言葉■・表現★)	●自分で食べることを楽しむ。 ●◆保育者に不安や欲求を十分に受け止めてもらい、安心して過ごす。 ●◆落ち着いた雰囲気の中で安心して眠る。 ●▲保育室や戸外での探索を楽しむ。 ◆▲保育者や友だちと一緒にいる中で、親しみや安心感を得る。 ▲春の自然(虫・草花など)に触れ、見たり触れたりする。 ◆▲■★絵本を見たり、読み聞かせしてもらったりすることを楽しむ。 ◆★保育士と歌を歌ったり、体を動かしたりすることを楽しむ。		●体を動かす遊びをのびのびと楽しむ。 ●着脱に興味を示し、自分でやってみようとする。 ●▲スプーンを使って自分で食べようとする。 ◆保育者や友だちと共に過ごす中で、徐々に友だちへの興味が増し、関わりを持とうとする。 ◆保育者と気持ちが通じ合う嬉しさを感じ、やり取りをしようとする。 ▲気に入った場所や遊びを見つけ、じっくり楽しむ。 ▲■★好きな絵本・歌・手遊びを繰り返し楽しみ、言葉への関心が高まる。 ▲★水・砂・泥などの感触を楽しむ。		●スプーンを使って意欲的に食べようとする。 ●◆保育者に見守られたり、手伝ってもらったりしながら自分の身の回りのことをしようとする。 ●◆保育者に排泄を伝える。 ◆保育者や友だちと一緒に遊ぶ中で、簡単なやり取りを楽しむ。 ▲全身を使う遊びや指先を使う遊びを楽しむ。 ▲秋の自然に興味を持ち、探索活動を楽しむ。 ■◆★自分の思いを言葉や身振り手振りで伝えようとする。 ★お気に入りの絵本を繰り返し見たり、好きな手遊びや歌を部分的に真似たりして楽しむ。		●一人で食べられることに満足感や達成感を得る。 ●◆着脱や排泄など身の回りの自分でできることを進んで行おうとする。 ●▲戸外遊びを通して冬の自然に関心を持って触れたり、春の訪れに気付いたりする。 ◆保育者や友だちと関わったり、やり取りしながら遊んだりすることを楽しむ、関係性を深める。 ◆■★遊びの中で気付いたことを言葉で伝え、共感してもらうことを喜ぶ。 ◆■★見立て遊びやつもり遊びを楽しみ、保育者や友だちとやり取りしながら遊ぶ。		
環境構成 援助 配慮	・子どもの姿を予測し、環境を整えたり見直したりして怪我や事故を防止する。 ・応答的な関わりによって、不安や欲求を丁寧に受け止め、信頼関係を築いていく。 ・ゆったりとした雰囲気、スキンシップを十分に取る。 ・保育者同士が声を掛け合いながら保育を行い、連携を取りながら保育を進めていく。 ・保育者間で情報共有し合い、同じ関わりや援助が行えるようにする。		・子どもの健康状態に留意し、水分補給や休息をしっかり取れるようにする。 ・安心できる雰囲気を作り、落ち着いて身の回りのことをやってみようと思えるよう、ゆとりを持って関わる。 ・友だちと心地良く関われるよう、仲立ちしたり玩具の数や種類を十分に準備したりする。 ・子どもとのやり取りを楽しみ、つぶやきや気付きに共感して受け止めていく。 ・活動にゆとりを持ち、無理せず過ごせるようにする。		・自分でしようとする気持ちを大切に、できた時は一緒に喜んで認めることで、自信や達成感が感じられるようにする。 ・友だちとの関わりを見守りつつ、相手の気持ちにも気付けるよう代弁し、繰り返し関わり方を伝えていく。 ・自己主張する姿を肯定的に受け止め、一人ひとりと丁寧に関わり、自分なりに表現できるようにする。		・できるようになったことを一緒に喜び、主体的に生活する意欲へとつなげていく。 ・子ども同士の簡単な言葉でのやりとりを楽しめるように、様子に合わせて働きかけ援助する。 ・尿意を訴えたら即座に反応し、対応する。 ・集中して遊べるよう環境を整える。 ・自我の育ちを見守り、さり気なく援助しながら基本的な生活習慣の自立の芽生えを目指す。		

期	1期(4月～5月)	2期(6月～8月)	3期(9月～12月)	4期(1月～3月)
子育て支援 (保護者支援)	・送迎時には積極的にコミュニケーションを取り、日中の様子を伝えたり、疑問に応えたりして不安が和らぐよう丁寧に関わる。 ・直接会って話す機会を作り、気軽に話しやすい関係性を築いていく。	・気温や湿度、夏の疲れなどで生活リズムが崩れやすいので、園と家庭で食事や睡眠の様子を伝え合い、心地良く過ごせるようにする。 ・感染症が流行する時期なので、疾病に関する状況を正しく伝えたり、子どもの様子をこまめに伝え合ったりし、予防や早期発見に努める。	・行事を通して、園での子どもの様子を見てもらい、成長を実感し、喜び合う。 ・着脱や排泄してみようとする姿を伝え、保護者と協力しながら一緒に子どもの育ちを支えていく。 ・子どもの自己主張に対する保護者の悩みや困り感を受け止め、発達に沿った育ちを伝える。	・冬の感染症への注意を促し、疾病に関する情報を正しく伝えたり、子どもの様子を伝え合ったりすることで予防や早期発見に努める。 ・一年間を振り返り、子どもの成長を保護者と共に喜び合う。 ・進級にあたって生活リズムの大切さを伝えるとともに、保護者の不安に応えていく。
食育	・保育者に見守られ、安心して食事を楽しむ。 ・色々な食材に慣れる。 ・食事後は、手や口を拭いてもらい、きれいになった心地良さを感じる。	・色々な食べ物を見る、触れる、味わうことを通して、食に関心を持つ。 (低月月齢時は手づかみ食べを十分に経験する。) ・よく噛んで最後まで食べようとする。 ・コップの水をこぼさずに飲もうとする。	・保育士や友だちと一緒に楽しい雰囲気の中、意欲的に食べる。 ・「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする。	・スプーンやフォークの正しい持ち方を知り、楽しい雰囲気自分から進んで食べる。 ・できるだけ最後まで自分で食べようとする。
長時間保育	・安全な環境のもと、担当保育士と安心して触れ合う。 ・異年齢児と一緒に過ごすことに慣れる。	・異年齢児との交流を図りながら、家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごす。	・日が短くなると不安になる子もいるため、安心して過ごせるよう配慮する。	・感染症が流行する時期なので、一人ひとりの体調を把握し、担当保育士と連携して早期発見に努める。
年齢別研修	テーマ 「すこやかな育ち」 サブテーマ 「保育の質の向上」 内容 「子どもを尊重する保育」			→
自己評価				

令和6年度 2歳児 年間指導計画 さきたま保育園

		園 長		副 園 長		担 任	
年間目標	・自分の思いや欲求を出し、安心して過ごす。 ・生活に必要な身の回りのことを自分でしようとする。 ・保育士や友達と関わり、遊ぶことを楽しむ。 ・生活や遊びを通して、言葉のやり取りや表現する楽しさを味わう。		健康 安全 災害	・地震や火事を想定し、避難訓練に取り組み、避難方法を身に付ける。 ・絵本や紙芝居を通して、交通ルールを身に付ける		一年間の保育に対する 自己評価	
期	1期（4月～5月）		2期（6月～8月）		3期（9月～12月）		4期（1月～3月）
子どもの姿	●新しい環境のなかで、不安や緊張はあるものの、持ち上がりの保育士や顔見知りの友達、遊び慣れたおもちゃで遊んでいる。 ●落ち着いて食事をする子もいれば、手づかみや立ち歩きをする子もいる。 ●保育士に誘われてトイレで排泄するが、ときには嫌がることもある。 ●簡単な衣服の着脱を自分でしようとするが、できないときは知らせてくる。 ●砂場やバンバンなど、好きなことを見つけて体を動かして遊んでいる。 ●園庭で見つけた草花や虫を、見たり触ったりして喜ぶ。		●園生活に慣れ、落ち着いて生活し、行動範囲も広がってきている。 ●暑くなってきて食欲が落ち、水分を多く欲しがる子が増えてくる。 ●トイレで排泄し、パンツに移行する子がいる。 ●自分で着替えようとするが、思うようにできない子もいる。 ●水や泥遊びなどを思い切り楽しむが、なかには汚れることを嫌がる子もいる。 ●「友達と一緒に」がうれしく、同じことをしようとするが、物の取り合いをしたり、思い通りにならないときは泣いたり叩いたりすることもある。		●運動量が増え、自分で意欲的に食事をする。 ●苦手な物も保育士に励まされ、少しずつ食べようとする。 ●尿意・便意を感じ自分から知らせ、トイレに行くようになる。 ●行動が活発になり、いろいろな遊びに興味を示し、しようとする。 ●気の合った友達との遊びが持続するようになってくるが、自己主張によるぶつかり合いも多い。 ●保育士や友達と曲に合わせて体を動かしたり、歌をうたったりして喜ぶ。		●気の合う友達と一緒に食べることを喜び、箸にも興味を持っている。 ●自分で布団に入って眠ったり、トイレでの排泄や、着替えたりするなど、身の回りのことがほぼ身に付いている。 ●友達との関りが活発になり、大勢で遊ぶことを楽しむようになる。 ●異年齢児に関心を持ち、まねをして一緒に遊んでいる。 ●語彙数が増え、楽しかった体験などを保育士や友達に言葉で伝えようとする。 ●少し寒くても元気に遊んでいる。
ねらい	・新しい環境に慣れ、安心して生活したり遊んだりする。 ・保育士に手伝われながら、簡単な身の回りのことをしようとする。 ・春の自然のなかで、のびのびと体を動かして遊びを楽しむ。		・適切に休息をとりながら、梅雨時季や暑い時期を健康で快適に過ごす。 ・保育士に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ・夏の遊びを十分に楽しみ、開放感を味わう。 ・保育士や友達と関わって遊びながら、興味や経験を広げていく。		・簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ・十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・保育士や友達と一緒に、模倣や表現遊びを楽しむ。 ・秋の自然に触れ、関心を持つ。		・身の回りのことをする喜びを感じる。 ・ごっこ遊びや集団遊びなどを通して、友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分の思いを言葉で伝えたり、やり取りをしたりしながら遊ぶ。 ・冬の自然現象に興味を持ち、触れて楽しむ。
養護 （生命の保持・ 情緒の安定）	・保育士に援助してもらいながら、簡単な身の回りのことを意欲的にする。 ・不安や欲求を保育士に受け止めてもらい、安心して生活する。		・水分補給や休息に配慮しながら、夏の遊びを十分に楽しみ体力を付ける。 ・保育士が仲立ちしながら、友達と遊ぶ楽しさを感じられるようにする。		・一人ひとりの成長に合わせ、援助をしながら基本的生活習慣の習得に意欲を持たせていく。 ・集団生活に必要な決まりを覚え、順番を守ることや、おもちゃの貸し借りができるようにする。		・一人ひとりの成長に合わせて、達成感を感じられるように前向きな言葉をかけ、自信を持たせていく。 ・生活リズムを大切にし、寒さに負けない体力を付ける。
教育 （健康・人間関係・環境・ 言葉・表現）	・生活リズムを整え、安定した生活を送れるようにする。 ・友達や保育士と安定した関わりを持ち、言葉を増やす。 ・新しい自分のロッカーを覚え、持ち物の管理の仕方を知る。 ・友達や保育士の名前を覚え、生活に必要な言葉も、遊びを通して習得する。 ・歌やリズム遊びで、体をたくさん使って表現することを楽しむ。		・暑さに負けないよう水分補給や休息を十分に取り、体調の変化に注意していく。 ・友達との関わりの中で、相手の気持ちに気付かせていく。 ・水遊びや色水遊びなど、夏ならではの遊びを楽しむ。 ・絵本や紙芝居、会話等をする中でのやり取りを楽しみ、言葉を増やしていく。 ・楽器や体操、ダンスなどで、簡単なリズムを楽しむ。		・戸外から戻ったら、うがい手洗いを習慣にし、体調管理をしっかり行う。 ・行事を通して、友達と一緒に活動する楽しさを知り、達成感を味わっていく。 ・秋の自然を見たり触れたりして、五感で感じる。 ・絵本や、伝承遊びなどを通して、たくさんの言葉に触れながら、会話も楽しむ。		・戸外に出て元気に遊び、友達と一緒に楽しむ。 ・鼻水が出たら自分で拭く（鼻をかむ）ことを伝える。 ・友達との関わりが深まる反面、トラブルも多くなるため、友達の話に耳を傾け、気持ちを言葉で伝えることを促し、思いやりの気持ちを育んでいく。 ・見たり聞いたりしたことを自分で言葉にできるように働きかけ、会話をする楽しさを知る。
環境構成 援助 配慮	・一人ひとりの不安や緊張を受け止め、ゆったりとした雰囲気の中で過ごせるよう、生活や遊びの場を清潔で安全に整える。 ・一人ひとりの排尿間隔を把握し、トイレへ誘うようにする。 ・簡単な身の回りのことを一緒にしやすいよう、タオル掛けやロッカー、かご等に個人用マークを貼る。 ・興味を持つような遊びや、遊び慣れたおもちゃを準備しておき、安心して遊べるように配慮する。 ・季節の歌をうたって楽しんだり、眠るときにオルゴール音楽を流したりして心地よく過ごし、ゆったりと関わる。 ・春の自然に触れたり、体を動かしたりして遊ぶ機会を多く持つ。		・風通しや室温、健康状態などに気を配り、水分補給や休息を十分に行う。 ・自分でできたときは一緒に喜び、手伝いが必要なときはさりげなく手を添え、自分でしようとする気持ちを大切にし、さらに意欲を育んでいく。 ・トイレは、一人ひとりの排尿間隔に合わせて声をかけ、トイレに行けるようにする。 ・水あそび用のおもちゃなどを用意し、十分楽しめるようにする。 ・紙皿やストロー、カラーポリ袋などの素材を準備し、見立て遊びやごっこ遊びを楽しめるようにする。 ・友達と関わって楽しめるよう、保育士も一緒に遊び、言葉が足りないときには代弁をしながら、相手の気持ちに気付けるよう根気強く関わる。		・全身を使った活発な遊びが多くなるため、安全な環境を整え、必要に応じて水分や休息を十分にとれるように配慮する。 ・自分で身の回りのことがしやすいよう、環境を見直すとともに、意欲を大切にし、一人ひとりに応じた援助をしながら、できたことを十分に褒め、認めていく。 ・友達と関わる遊びが多くなり、トラブルも増えるため、互いの気持ちを受け止めながら、話をよく聞いて仲立ちをし、関わり方を丁寧に知らせる。 ・イメージを広げてごっこ遊びを十分に楽しめるよう、保育士が仲間に加わり、遊具や場の工夫をして、遊びが発展するように援助していく。 ・幼児組の運動会練習を見ることで、年上の子の活動に興味を示したり、まねをしたりしながら、曲に合わせて体を動かすことが楽しめるようにする。 ・秋の自然に触れながら、ごっこ遊び等が楽しめるよう、環境の準備設定をしていく。		・手洗いやうがいなど風邪の予防に努め、室温や湿度を確認し、換気に気を配っていく。 ・年上の子との交流を増やすことで、クラス担任同士で連携をとりながら、幼児クラスの生活を知らせ、安心できるようにする。 ・保育士も一緒に遊びながら、集団遊びや追いかけての楽しさに共感していく。 ・子どもが意欲的に模倣やごっこ遊びが楽しめるよう、用意や設定をしていく。 ・子どもの話したいことや、やりたいことを聞いて意欲をくみ取り、言葉で表現しようとする気持ちを満たすようにする。 ・冬の自然に触れて楽しむ機会を大切にする。

期	1 期（4 月～5 月）	2 期（6 月～8 月）	3 期（9 月～1 2 月）	4 期（1 月～3 月）
子育て支援 （保護者支援）	・園での様子を伝えながら、信頼関係を深めていく。	・日々の様子を伝え合い、夏の時期の体調管理についても知らせていく。	・着脱しやすい衣服や、使いやすい持ち物を持ってきてもらい、意欲を持って身の回りのことを自分でできるようにしていく。	・発達や成長の様子を伝え、喜び合いながら不安なく進級できるように連携していく。
食育	・友達や保育士と一緒に楽しく食べる。 ・食事に必要な基本的な態度（着席、あいさつ等）や習慣を身に付ける。 ○自分で食べようとする意欲を大切にし、楽しい雰囲気作りを心がける。	・手洗いの仕方を身に付け、清潔な手で食べる。 ・苦手なものも「ちょっとだけ食べみようね」と声をかけ、食べられたり、食べようとしたりした時には、大いに褒め、次のやる気や意欲へつなげていく。 ○保育士も一緒に楽しく食事をしながら、体調や食事の量、食材の大きさ等、個人差に合わせ、こまめに対応していく。また、スプーンやフォークの使い方を見ていく。	・様々な食材をよく噛んで食べる。 ・食事の前の衛生管理の仕方を少しずつ意識する。 ○きれいに食べられるよう励ましたり、声かけをしたりして意欲的に食べられるよう促していく。	・食習慣の基礎を身に付け、みんなで一緒に食べることを喜び、楽しく食事をする。 ・苦手なものも、少しだけ食べてみようとする。 ○食事では個人差を配慮し、一人ひとりに応じた援助をしながら自信につなげ食習慣の基礎が身に付くようにする。
長時間保育	・安全な環境の下、担当保育士と安心して触れ合う。	・異年齢児交流を図りながら、家庭的な雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごす。	・日が短くなると不安になる子もいるため、安心して過ごせるよう配慮する。	・感染症の流行する時期なので、一人ひとりの体調を把握し、担当保育士と連携し早期発見に努める。
年齢別研修	テーマ 「すこやかな育ち」 サブテーマ 「保育の質の向上」 内容 子どもを尊重する保育			
自己評価				

令和6年度 3歳児 年間指導計画 さきたま保育園

令和6年度　3歳児　年間指導計画				園　長		副　園 長		担 任	
年間目標	・園生活の流れや生活の仕方が分かり、自分の身の回りのことをしようとする。 ・自分の興味や関心、思いを自分なりの方法で表現する。 ・保育者や友達に親しみをもち、友達と触れ合いながら、安心して自分のしたい遊びに取り組む。			健康安全災害	○受け入れ時、受け入れ後の十分な視診をする。 ○事故やけがに合わないよう、危険な行為や遊ぶときの約束を繰り返し確認する。 ○避難訓練を通して、災害時に安全に避難する方法を身につける。		一年間の保育に対する自己評価		
期	1期（4月～5月）			2期（6月～8月）		3期（9月～12月）		4期（1月～3月）	
子どもの姿	○新しい環境に不安を感じ、泣いてしまう子がいる。 ○朝の支度では、保育者と一緒に行く。 ○好きな遊びを見つけ、保育者や友達と一緒に楽しむ。 ○自分で食べ進めるが、食事の量やスピードなどの個人差があり、時間がかかる子もいる。 ○排泄の間隔が定まっていない子がいる。			○保育者に親しみ、気持ちが安定し、新しい活動に楽しく参加する。 ○園生活に慣れ、できることは自分でしようとする。 ○固定遊具や玩具に興味を示し、友達とふれあいながら、自分の好きな遊びに楽しんで取り組む。		○身の回りの始末や排泄など基本的な生活習慣を自分でしようとするが、まだ個人差がある。 ○友達と一緒に同じ遊びをする楽しさを感じ、友達との関わりが深まる。そのため、自分の思いや考えを通そうとして、トラブルが起こることもある。		○身の回りのことや生活に必要なことなど、自分でしようとし、できたことを喜ぶ。 ○体験したことや自分の気持ちなど言葉で伝える楽しさを感じる。 ○安定した気持ちで園生活を送るようになり、気の合う友達と一緒に活動する楽しさを味わう。	
ねらい	○園生活の流れを知り、園の生活リズムに慣れる。 ○保育者に気持ちを受け止めてもらいながら、安心して過ごす。 ○園の遊具や玩具に興味を持ち、自分から遊びようとする。			○園での生活の仕方が分かり、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自分の好きな遊びを十分に楽しみながら、友達のしていることにも興味を示し、かかわろうとする。 ○水や砂の感触を楽しみながら、伸び伸びと遊ぶ。		○遊びや生活の中で、決まりや約束があることを知り、守ろうとする。 ○友達と一緒に伸び伸びと体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。（運動遊びも含む） ○友達と遊びを共有する中で、話したり、聞いたりして会話を楽しむ。		○基本的な生活習慣が身に付き、自信を持って生活する。 ○友達とかかわりながら活動する楽しさを味わう。 ○進級する喜びと期待を持って生活する。	
養護 （生命の保持・ 情緒の安定）	○安定した雰囲気の中で一人ひとりに応じた休息を十分に取る。 ○子どもたちの不安な気持ちを汲み取り、一人ひとりが安心して過ごせるようにする。 ○手洗いうがいをしっかり行い、換気や加湿、清掃などで、感染予防に努める。			○十分な休息や水分補給を行いながら、体を動かすことを楽しめるようにする。 ○自分の思いを保育者に受け止めてもらい、共感してもらうことで安心して過ごす。		○活動や運動量に合わせて休息を十分にとり、子どもの体調管理をしていく。 ○一人ひとりの姿を認め、励まししながら子どものやる気を引き出し、満足感が味わえるようにする。		○感染症などで体調を崩しやすい時期なので、一人ひとりの体調を把握し予防に努める。 ○一人ひとりの子どもが、充実した園生活を送れているか把握し、個々の成長を認め、自信が持てるようにする。	
教育 （健康・人間関係・環境・ 言葉・表現）	○基本的な生活の仕方を知り、保育者に手伝ってもらいながらも自分でしようとする。 ○保育者や友達に親しみ、安心感を持って遊ぶ。 ○春の草花や虫などを見たり触れたりして、自然に興味・関心を持つ。 ○したいこと・してほしいことを保育者に動作や言葉で伝えようとする。 ○保育者や友達と一緒に歌や手遊びをしたり、体を動かして遊んだりする。			○遊びや生活を通して、簡単な決まりや約束を知り、守ろうとする。 ○友達のすることを見たり、まねしたりしながら一緒に遊ぼうとする。 ○水遊びや戸外遊び（砂遊び・泥遊び）など、解放感を味わえる遊びを十分に楽しむ。 ○保育者や友達に言葉で伝える楽しさを味わう。 ○曲に合わせてリズムをとったり、体を動かしたり、簡単な身体表現をしたりして楽しむ。		○生活の仕方がわかり、自分でできることを進んでやろうとする。 ○保育者や友達と、簡単なルールのある遊びをして楽しむ。 ○木の葉、木の実などを集め、それらを使って、いろいろな遊びをする。 ○友達と関わって遊ぶ中で、相手の気持ちを知らうとする。 ○絵本や紙芝居、童話等を通して、イメージを持って楽しみ、見たり聞いたりする。 ○絵本や紙芝居からイメージを広げ、友達と色々な表現を楽しむ。		○1日の生活の流れが身に付き、見通しを持って過ごすことができる。 ○生活や遊びの中でルールや約束を守る大切さを知る。 ○友達と一緒に行動したり、活動したりする楽しさを感じる。 ○全身を使った遊びを十分行い、寒くても活動的に元気良く過ごそうとする。 ○生活や遊びの中で感じたことや考えたことを言葉にして伝えようとする。	
環境構成 援助 配慮	○室内外を安全で清潔に整備し、子どもたちが安心して使用できるようにする。 ○個人マークを付け、支度・食事・排泄など繰り返し行い、安心して身につけられるようにする。 ○子どもたちの不安な気持ちを受け止め、小さなサインも見逃さないようにする。 ○好きな遊びを見つけられるように、保育者も一緒に遊び、興味を持てるような声かけをする。 ○季節の絵本や歌などで自然に親しみが持てるようにする。			○暑さ対策として、帽子の着用、日陰での遊び、適切な室温（冷房の使用など）、適度な水分補給と休息を取れるような配慮をする。 ○簡単な身の回りのことは、「自分で」という思いを大切にしながらも、必要に応じて手伝う。 ○水遊びを通して、水の危険性を繰り返し伝えていくと共に、安全に楽しく遊べるよう発達や興味に合った環境を作っていく。 ○子どもの言葉や表情から思いを受け止めたり、共感したりしながら関わっていく。 ○物の取り扱いなどのトラブルが出てくるため、互いの気持ちを受け止めたり、代弁したりして友達とのかかわりが楽しいものになるように配慮する。		○色々な行事に無理なく参加できるよう、取り組み方を工夫する。 ○意欲を持って取り組んでいる事を十分に認めながら、友達と一緒に取り組む心地良さや充実感を味わえるようにする。 ○自然の中で見つけた物（木の葉、木の実など）を利用して造形遊びを楽しめるようにする。 ○子ども同士のトラブルには、お互いの気持ちや言い分をゆったりと受け止め、相手の立場や思いに気づかせていく。		○暖房、換気、寒さへの対策をするなど、安全、健康な環境に留意する。 ○基本的な生活習慣が身についたか確認し、一人ひとりの自立に向けて援助していく。 ○子ども同士と一緒に遊べるような環境を用意し、保育者も一緒に輪に入りながら必要に応じて言葉を掛けていく。 ○4歳児の姿を見せ、保育室を見学するなどして進級することに期待が持てるようにする。	

期	1期（4月～5月）	2期（6月～8月）	3期（9月～12月）	4期（1月～3月）
子育て支援 （保護者支援）	○子どもを初めて集団生活に入れる保護者の思いや不安な気持ちを受け止め、子育ての大切さや喜びなどに共感し、信頼関係を築いていく。 ○書類や申し送り、面談などで事前に家庭の状況をよく把握しておく。 ○保護者に安心してもらえるよう、園での様子を話したり、家庭の様子を聞いたりする。	○保育見学や個人面談で、園や家庭での子どもの姿について話す機会を持ち、成長や困っている事などを共有、共感し安心して子育てできるようにしていく。 ○夏の生活の仕方、基本的な生活習慣の大切さを知らせる。 ○体の清潔や着脱しやすい服装の準備などに配慮しながら、夏の健康に関心をもてるよう連絡を深める。	○寒さに向かった健康管理の大切さや、生活習慣の見直しなどを知らせていく。 ○子どもの姿をクラスだよりで知らせ、共に喜びあえるようにする。（行事や日々の様子を通して成長している姿、頑張っている姿を知らせる）	○一年の成長の姿を伝え、保護者と喜びを共有する。 ○感染症などが流行しやすい時期になるので、予防や早期対応をしてもらうようお願いする。
食育	○給食やおやつを友達や保育者と楽しく食べる。 ○箸やスプーンを正しく持って食べる事を意識する。	○色々な食材に興味を持ち、食べてみようとする。	○楽しい雰囲気の中で、自分の苦手な物も、少しずつ食べてみる。 ○りんご狩りを通して、自然と食事のつながりを知る。	○色々な食材を口にし、体との関係性があることを知る。
	○給食の中の旬の食材を知らせると共に、食に興味を持てるようにする。	○野菜を栽培、観察し、食への興味につなげる。 ○箸を持つことに慣れ、保育者に見守られながら箸で食べようとする。		
長時間保育	○遊びを選べるよう複数の遊びを設定し、自分の好きな遊びをゆったりとした気持ちで遊ぶ環境を作る。 ○新入児や転園児で初めて利用する子どもが不安にならないよう一人ひとりの気持ちを受け止める。	○室温や湿度の調節をしたり、水分補給を促したりして、快適に過ごせるようにする。	○異年齢児と関わって遊べるような玩具も用意し、楽しく過ごせるようにする。	○自分から進んで片付けができるよう援助する。
				○風邪やインフルエンザも流行する時期なので、一人ひとりの体調を把握し、担当職員と連携する。
年齢別研修	テーマ「すこやかな育ち」 サブテーマ「保育の質の向上」 内容「子どもを尊重する保育のために」			
自己評価				

令和6年度 4歳児 年間指導計画 さきたま保育園

令和6年度 4歳児 年間指導計画 さきたま保育園					園長		副園長		担任	
年間目標	○保育者や友だちとの関りを深め、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちに気付けるようになる。 ○意欲的に活動に取り組む中で、基本的な生活習慣や態度を身に付ける。 ○様々な体験の中で、感じたことや考えたことを自分なりにイメージし表現することを楽しむ。		健康安全災害	・受け入れ時、受け入れ後の十分な視診。 ・毎日の清掃や保育備品等の消毒、園内外の安全点検。 ・避難訓練を通して災害時に安全に避難できる方法を身に付ける。		一年間の保育に対する自己評価				
期	1期（4月～5月）		2期（6月～8月）		3期（9月～12月）			4期（1月～3月）		
子どもの姿	・進級を喜び、新しいことに興味を示す姿がある一方で、不安な姿も見られる。 ・身の回りのことは概ねできるが援助が必要な子もいる。 ・好きな遊びを見つけ集中して遊ぶ姿が見られる。		・生活の流れに慣れ、安定して過ごす。 ・身の回りのことが自分でできるが援助が必要な子もいる。 ・様々な遊びや活動を通して友だちとの関わり方も積極的に、一緒に過ごす楽しさを知る。		・興味や関心が広がり、意欲的に活動に取り組んだり、友だちと協力し合う姿が見られる。 ・友だちとの関りが深まる中で自己主張が強くなりトラブルも見られるが、思いやりの気持ちも芽生えてくる。			・友だちとのぶつかり合いもあるがお互いの思いを受け入れたり、我慢したりしながら、様々な出来事を自分たちで解決しようとする姿も見られる。		
ねらい	・新しい環境に慣れ安心して生活する。 ・生活の流れや仕方がわかり、できることは自分で取り組みながら、身の回りのことを進んで行う。		・梅雨期や夏季の健康な生活の仕方を知り、この時期ならではの活動を楽しむ。 ・友だちと様々な遊びや活動を通して、一緒に遊ぶことを楽しむ。		・友だちと共通の目的に向かって、協力し合いやり遂げる喜びや満足感を味わう。 ・身近な自然と十分に触れ合う中で、興味を持って見たり、取り入れたりしながら遊ぶ。			・生活や遊びの決まりを守り、基本的な生活習慣や態度を身に付け、進級への意欲を持つ。 ・友だちとの関わりを深め、一緒に試したり工夫したりしながら遊びを進める楽しさを味わう。		
養護 （生命の保持・情緒の安定）	・園内外の危険や安全についての約束事を伝え、安全に生活できるようにする。 ・子どもたちが安心して過ごせるよう、一人ひとりの気持ちを受け止め、共感し、優しく丁寧に対応する。		・水分補給や休息、衣服の調節をして、快適に過ごせるようにする。 ・職員と協力して水の事故を防止する。 ・自分の気持ちを素直に表せる、安心の場となるようにする。		・運動量が増えるので休養を十分に取り、体調を崩したり怪我が起きないように配慮する。 ・一人ひとりの頑張りを見逃さず、わずかな成長でも認めていく。			・手洗い・うがいをしっかり行い、換気や掃除で感染予防に努める。 ・一年間の子どもの成長を認めることで、自信をもって進級できるようにする。		
教育 （健康・人間関係・環境・言葉・表現）	・食事や排泄、着脱など基本的な生活習慣を身に付ける。 ・共同の遊具や用具を大切に扱い、順番に譲り合って使う。 ・身近な自然に興味を持ち、見たり触れたりすることで親しみを持つ。 ・思ったことやしてほしいことを、保育者にいろいろな方法で伝えようとする。		・身の回りを清潔にする心地よさに気づき、手洗い・うがいなど進んで行う。 ・水の感触や夏ならではの遊びを肌や全身で感じながら友だちと一緒に遊びを楽しむ。 ・野菜作りや夏ならではの自然事象に興味を持ち、保育者や友だちと驚きや発見を共有し合う。 ・経験したことや感じたことを、自分の言葉で伝えようとする。		・遊具を使った遊びや、ルールを守りながら競い合う遊びの楽しさを味わう。 ・自己主張をするだけでなく、相手の意見も聞き入れ、お互いに認め合う。 ・園庭散策を通して、季節の移り変わりや環境の変化を感じる。 ・絵本や紙芝居を見たり聞いたりして、イメージしたことを様々な方法で表現する。 ・音楽に親しみ、音楽に合わせて体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。			・寒さに負けず戸外で体を動かし、友だちと遊ぶ楽しさを味わう。 ・良いこと悪いことの区別がわかると共に、決まりを守る大切さに気付きながら、相手のことも考えて行動する。 ・冬の自然現象に興味・関心を持つ。 ・自分の思ったことや考えたことを、言葉で相手に伝えようとする。 ・自分のイメージを言葉や動作など様々な方法で表現して遊ぶことを楽しむ。		
環境構成 援助 配慮	・新しい環境への不安を十分に受け止めながら、保育園が安心してきて楽しい場所であると感じられるよう、家庭との連携をもとに一人一人が落ち着ける場を確保する。 ・人との関わりがうまく持てるように、友だちとの関わり方や、人の話をよく聞くこと、自分で伝える大切さを知らせていく。		・汗を拭いたり、衣服で調節したり、こまめな水分補給など季節に合わせた過ごし方を知らせていく。 ・適度に休息がとれるよう、活動や環境を工夫する。 ・夏の遊びを十分楽しめるように準備し、活動中も安全確認に努める。 ・野菜作りなど遊びや生活の中で、身近な動植物や自然事象に興味・関心が持てるようにする。		・温度調節や換気・衣類の調節を行い、快適に過ごせるようにする。 ・子ども同士が誘い合い、刺激し合えるような場を設け、一緒に活動する楽しさが味わえるようにする。 ・季節の移り変わりが感じられるよう、遊びの中に身近な秋の自然を取り入れる。 ・思いや気付きを大切に受け止め、一人一人が安定した気持ちで自分を発揮し、表現できるようにする。			・一人一人の良さや取り組み、成長を認め、年長組への期待や喜び、自信が持てるよう援助する。 ・同じ目的や興味を持つ友だちの考えを受け止めながら、遊びが発展していくように援助する。 ・約束を守る大切さに気付き、一緒に考えながらできるだけ子ども達だけで解決できるように援助する。		

期	1 期（4 月～5 月）	2 期（6 月～8 月）	3 期（9 月～12 月）	4 期（1 月～3 月）
子育て支援 （保護者支援）	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いを受け止め、子どもの様子を話し合うことで協力関係を築く。 ・日々の送迎時などに子どもの様子を伝え、信頼関係を密にし子育てについて理解を深め、子育ての喜びを共感する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園での子どもの生活や健康状態について、家庭と密接な関係がつけられるよう体制を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事は子どもたちの成長のためにあることを理解してもらえよう、本番だけでなく練習の過程での子どもの育ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の成長を家庭と共に喜び合う。 ・進級することを保護者と共に喜び、子育てに不安があったり、子育てが未熟な保護者には今後の成長に希望が持てるよう支援する。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で自分で食べる。 ・箸の使い方を知り、慣れる。 ・一人ひとりの食事の状態を把握し、言葉掛けをしたり、援助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に必要な習慣やマナーを知り、少しずつ身に付ける。 ・いろいろな種類の食べ物や料理に関心を持ち味わう。 ・野菜の生長に気付き収穫の喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な食材に興味を持ち、楽しみながら食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体と食べ物の関係に興味を持ち、いろいろな物を進んで食べようとする。
長時間保育	<p>●安全な環境の下で、担当保育士と安心して触れ合う。</p> <p>●異年齢交流を図りながら、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりした時間を過ごす。</p>			
	<p>＜配慮事項＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けんかやケガに気を付ける。 ・異年齢児間で、大きい子が小さい子に対して思いやりの気持ちを持ち、また小さい子が大きい子に憧れの気持ちが持てるような様々な遊びを行い、優しい言葉かけ等に留意していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けんかやケガに気を付ける。 ・異年齢児間で、大きい子が小さい子に対して思いやりの気持ちを持ち、また小さい子が大きい子に憧れの気持ちが持てるような様々な遊びを行い、優しい言葉かけ等に留意していく。 ・こまめに水分補給を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けんかやケガに気を付ける。 ・異年齢児間で、大きい子が小さい子に対して思いやりの気持ちを持ち、また小さい子が大きい子に憧れの気持ちが持てるような様々な遊びを行い、優しい言葉かけ等に留意していく。 ・温湿度に気を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けんかやケガに気を付ける。 ・異年齢児間で、大きい子が小さい子に対して思いやりの気持ちを持ち、また小さい子が大きい子に憧れの気持ちが持てるような様々な遊びを行い、優しい言葉かけ等に留意していく。
年齢別研修	<p>テーマ「すこやかな育ち」</p> <p>サブテーマ「保育の質の向上」</p> <p>内容「子どもを尊重する保育」</p>			
自己評価				

令和6年度 5歳児 年間指導計画 さきたま保育園

令和6年度 5歳児 年間指導計画 さきたま保育園				園長		副園長		担任	
年間目標	○健康的な生活リズムを身につけ、友達と体を十分に動かし、心地よさや楽しさを味わう。 ○友達との関わりを通して社会生活における必要な態度を身につけ、みんなで協力したり役割を分担したりしながら、目的を成し遂げる喜びを味わう。 ○様々な体験を通して豊かな感性を育み、表現することの楽しさを味わう。			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目	ア)健康な心と体 イ)自立心 ウ)協同性 エ)道徳性・規範意識芽生え オ)社会生活との関わり カ)思考力の芽生え キ)自然との関わり・生命尊重 ク)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ)言葉による伝え合い コ)豊かな感性と表現				
小学校との連携 (小学校教育との接続)	・保育所保育要録の作成を行う。 ・小学校の先生と意見交換や合同研修の機会を設け、引き継ぎを行う。		健康安全災害	・自らの体や健康に関心をもち、心身の機能を高め発達を促す。 ・危険な場所を知り、安全な過ごし方を知る。 ・安全な遊び方や、災害時の行動の仕方を知り行動する。		一年間の保育に対する自己評価			
期	1期（4月～5月）		2期（6月～8月）		3期（9月～12月）		4期（1月～3月）		
子どもの姿	・5歳児としての役割に緊張感や不安感をもつ子がいる。 ・身の回りのことはほとんど自分で出来るが、新しいやり方にも慣れていこうとする。 ・年下の子の世話をしたり、一緒に遊んだりしながら、親しみをもつ。 ・仲の良い友達といろいろな遊びや運動を楽しんでいる。 ・春の自然に関わりながら、季節を楽しむ。 ・身近な動植物への興味・関心をもち、世話をしたり、本などで調べたりする。		・相手の思いや考えに気づきながら自己主張する姿がある。 ・気候によって自ら衣類で体温調節をし、水分補給を行おうとする。 ・当番活動への意欲が高まり、積極的に行動する。 ・夏の遊びを楽しみ、身近な自然への興味が深まる。		・友達と同じ目的を持ち、工夫したり、協力したりしながら、自分達の力で活動を進めようとする。 ・運動会を経験し、仲間意識が芽生え、友達との関わりに広がりが出てくる。 ・様々な運動あそびへの関心が高まり、難しいことも諦めず、意欲的に取り組もうとする。 ・自己主張をしながらも、相手の思いや考えを知る。 ・自然の変化に気づき、あそびに取り入れて楽しんでいる。		・見通しをもって生活しようとする。 ・遊びの内容が豊かになり、また、友達の思いや考えを受け入れようとする姿が増える。 ・仲間意識を強まり、友達と考えを出し合ったり、工夫したりして遊びをより楽しくしようとする姿が見られる。 ・就学への意識が高まり、生活やあそびに意欲的に取り組む子もいるが、不安を感じている子もいる。		
ねらい	○保育士や友達と一緒に、年長組になった意識をもつ。 ○新しい環境に慣れ、保育者や友達と一緒に生活する楽しさを味わう。 ○進んで体を動かす心地よさや楽しさを体験し、健康な体作りに取り組む。 ○年下の子の世話をしたり、一緒に遊んだりしながら、親しみをもつ。 ○公共のマナーを理解し行動しようとする。 ○春の自然に関わりながら、季節を楽しむ。		○梅雨や夏の生活の仕方が分かり、健康に過ごす。 ○見通しをもって活動に取り組もうとする。 ○友達とルールを考えて遊びを楽しむ。 ○自分の力を十分に発揮して運動や遊びに取り組む。 ○身近な自然に触れ、そのおもしろさ、不思議さ、美しさを友達と伝え合う。		○目的に向かって自分の力を発揮したり、協力し合ったりして達成する楽しさを味わう。 ○友達の頑張っている姿に気づき、その姿を認めようとする。 ○戸外で体を動かし、友達と一緒にルールを守りながら遊びや生活を進める楽しさを味わう。 ○身近な自然に興味・関心をもち、あそびに取り入れて楽しむ。		○自分の体や健康に関心をもち、必要な生活習慣を身につける。 ○遊びや生活の中で、友達と共通の目的をもち、工夫しながら活動に取り組むことを楽しむ。 ○就学への自信や期待をもち、見通しや目標をもって園生活を十分に楽しむ。		
養護 (生命の保持・情緒の安定)	・自分の体や健康に関心をもち、感染症予防に意識する。 ・自分の頑張りや取り組んでいる姿を認めてもらう。 ・友達や保育士と安心して過ごす。 ・気温や活動に合わせて衣服の調節を気かけ、着脱を自分で行おうとする。 ・異年齢の友達と関わりをもち、優しい態度で接しようとする。		・自分の健康や体について関心を持って食べ物、運動、生活リズムの大切さに気付き、夏を健康に過ごせるようにする。 ・こまめに水分を取るなど水分補給の際に気を付けることを知る。 ・何か挑戦したい気持ちや、やってみたい意欲を認めてもらう。 ・友達と様々なことを経験する中で共感したり、反発をしたりしてつながりを深めていく。 ・水遊びでは、水に十分親しみを持てるようにするとともに、水の危険性についても知る。		・健康な生活をするための仕方を理解し、衣服の調節や手洗いうがいなどを進んで行う。 ・保育者に気持ちを寄り添ってもらいながら、自信をつけて様々なことに挑戦しようとする。 ・活動意欲の高まりとともに生じる競争心や達成感を認め、自信が持てるようにする。		・健康な体づくりに関心をもち、生活のリズムを整え、健康な生活の習慣を身につける。 ・就学前で不安な気持ちを保育者に受け止めてもらい、安心感をもつ。 ・友達と話をすることで自分の考えを伝えると共に、相手の意見も聞き、認め合う心地よさを味わう。		
教育 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)	・5歳児としての生活に必要な言葉や表現の仕方に関心をもち、新たな習慣を身につける。 ・活動の手順が分かり、友達と協力しながらやってみようとする。 ・友達と一緒に、いろいろな運動遊びや固定遊具を使って体をたくさん動かして遊ぶ。 ・友達や保育者に自分の思いを伝え、相手の話を聞こうとする。 ・年下の子に親しみをもって世話をする。 ・絵本・紙芝居を通して公共のマナーを理解する。 ・自然物を取り入れて遊ぶことを通して、自分から気づいたり発見を楽しんだりする。 ・話の展開に興味をもって聞く。 ・友達と声を合わせて歌う気持ち良さを味わう。 ・日常生活を通して、数量や図形、時間に関心を持つ。		・雨の日や暑い時季の生活の仕方を知り、快適に過ごす。 ・様々なことに挑戦し、成功や失敗を経験する。 ・遊びに必要なものを友達と考え、試したり工夫したりしながら、協力し合って作る。 ・自分の体験したことや感動したことを言葉で伝えたり、友達の思いも聞いたり受け入れたりする。 ・自分の言いたい事を相手に分かるように話すとともに、友達の話すことにも関心を持ち、聞こうとする。 ・水遊びのルールを守り、友達と一緒に夏のあそびを楽しむ。 ・当番活動で水やりをし、植物の生長を楽しむ。		・友達と積極的に体を動かす活動を取り組み、ルールを守って一緒にあそぶ充実感を味わう。 ・自分なりの目標を決め、友達と協力し合って物事をやり遂げようとする。 ・友達の頑張りや良さに気づき、認め合っていく。 ・友達との関わりの中で、相手の気持ちに気づき受け止めたり、言葉を通したりして心を通わせる。 ・経験したことや感じたこと、想像したことを描いたり演じたりして、様々な方法で自由に表現して楽しむ。 ・自然物を遊びに取り入れ、友達と工夫して遊ぶ。		・健康で安全に過ごす方法を知り、自分で考えて行動する。 ・毎日の生活を、子ども自身が見通しをもちながら行う。 ・友達とイメージや思いを話し合いながら、あそびに必要な物を作ったり、ルールを工夫したりして、意欲的にあそぶ。 ・自分の思いを伝え、相手の思いに気づき、折り合いをつけてあそびを進める。 ・身の回りの文字や数などに興味をもち、生活やあそびに取り入れて楽しむ。 ・卒園準備や行事を通して、就学に期待をもつ。		
			・話の展開に興味をもって聞き、保育者や友達と一緒に楽しむ。				・冬の自然事象に関心をもちたり、動植物の様子から春の訪れに気づいたりする。		

環境構成 援助 配慮	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの健康状態を把握し、流行性の感染症予防に努め、安全で健康な生活が送れるようにする。 生活や活動の手順を確認し、保育士が実際に一緒にしながら、できたことを認めるなど、不安をもっている子にも配慮する。 環境が新しくなったことをきっかけに、生活でのルールを確認し分かりやすく繰り返し伝えていく。 子ども同士で落ち着いて気持ちを伝え合えるよう、場所を設けたり、必要に応じて保育者が仲立ちをしたりする。 他のクラスとの連携を取り、年下の子と関わりが持てるようにし、保育者も関わりながら、年下の子に優しく関わろうとする気持ちを引き出したり、関わり方を知らせたりする。 公共の乗り物の中でのマナーを紙芝居などで伝え、子どもたちと確認する。 身近な自然に触れるなかで、子どもの新たな発見や驚きに共感し、興味をもって楽しめるよう、使える道具（図鑑など）を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 汗の始末や水分補給、休息の大切さを知らせ、自分から行動できるようにする。 経験したことを友達や保育士に話したり、友達の話聞いたりする時間を設ける。 子ども達が互いにイメージを出し合ってあそべるよう、保育士も遊びに参加しながら、必要なものを作れるようにするとともに、子どもの気づきに共感する。 子どもたちのやり取りの中でトラブルが起きた時は保育者が仲立ちするが、トラブル以外は子どもたちのやり取りを見守るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会や発表会に向けての活動に入る際に、行事の意味や内容を伝え、見通しをもてるように働きかけ、自主的に取り組めるようにする。 運動会や発表会を通して自分の力を発揮し、目標を達成する心地よさや、友達と競ったり協力したりする楽しさが味わえるようにする。 目標に向かって取り組むなかで、頑張っている姿を認めたり、その姿を周りの子にも知らせたりすることで、互いに認め合えるようにしていく。 いろいろな経験を、製作遊びや表現遊びに取り入れ、自由に表現することを楽しめるようにする。 友達と工夫して一緒に活動が進められるよう、用具や材料を準備しておく。 秋の自然に触れながら、あそびの中に取り入れる姿に共感し、季節の変化を楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に関心をもち、健康的な生活習慣が身につくように再確認する。また、身の回りのことが自分のできるよう、必要なところを援助していく。 友達とイメージを共有できるような場を作り、必要に応じて仲介しながら、共通の目的に向かって協力し、やり遂げる満足感や充実感を味わえるようにする。 思いが相手に伝わる喜びを味わえるよう、自分の感情をコントロールすることや、相手の気持ちを考えながら聞いたり話したりするように伝えていく。 正月あそびをきっかけに、文字や数を遊びや環境のなかに取り入れていき、興味がもてるようにする。 卒園に向けて行事や準備に取り組むなかで、園生活を振り返る機会をもち、身近な人や物に感謝の気持ちをもてるようにする。 就学への期待や不安を受け止め、自信をもって園生活を楽しめるようにする。 自然に関わる機会を多くもち、子どもの気づきや発見に共感していく。
	一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、自己肯定感を育む。			

期	1期（４月～５月）	2期（６月～８月）	3期（９月～１２月）	4期（１月～３月）
子育て支援 （保護者支援）	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムを整えていくことや、自立に向け認め励まし、健全な体を作っていく大切さを知らせていく。 保護者の気持ちを十分に受け止め、困ったときは相談できるような信頼関係を築いていく。（保育見学の実施など） 	<ul style="list-style-type: none"> 気温の変化から体調を崩しやすい子もいるので、体調管理について家庭と密に連絡を取り合う。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな活動を通して、子どもが成長している姿を保護者に知らせ、保護者とともに喜び合う。 「目に見える部分」だけでなく、しようとする姿やその意欲が子どもの充実感や自信につながることを保護者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携をとり、生活習慣の自立、生活リズムの見直しなどをしながら、子どもの成長を喜び合う。 就学に不安がある保護者には、就学先の各小学校と連携していることを伝え、安心感をもてるようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちよく食事をするためのマナーを知り、楽しい雰囲気です食事をする。 給食室の食材を見たり、献立メニューを聞いたりしながら様々な食材への興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の栽培を通して野菜に興味・関心を持つ。 自分の体と食べ物のつながりや体の仕組みを知る。（食育の紙芝居を使用して伝える） 三角食べを意識してバランス良く食事しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を育てて収穫し味わうなかで、食べ物を大切にする気持ちをもつ。 自分の体と食べ物の関係に関心をもち、食材の種類や働きを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 体の仕組みと食べ物の働きを知り、赤・黄・緑の食べ物をバランスよく食べることの重要性を知る。 食事のマナーを守り、時間の見通しをもちながら楽しく食べる。 様々な食材や料理する人への感謝の気持ちをもち、おいしく食べる。
長時間保育	<ul style="list-style-type: none"> 環境や人の変化に伴い緊張や不安を感じる子どももいるため、一人ひとりの生活リズムを把握し、甘えを受け止め、落ち着いて生活できるようにしていく。 職員間の連携を密にして、子どもが安心して過ごせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 厳しい暑さや湿気、急に涼しくなるなどの変化によって疲れも出てくるため、一人ひとりの様子を注意して見守り、静と動のバランスを考えながら生活をしていく。 気温や湿度が高いので、室温や通風に配慮し水分補給を十分に心掛け、熱中症予防に配慮していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動量が増えるため、一人ひとりの体調に合わせてゆったり過ごせるようにしていく。 日没時間がだんだんと早まり、気温が低くなり、寂しい気持ちにもなるため、温かく楽しい雰囲気の中で過ごせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 進級や卒園に向けての緊張や不安を感じることも多くなるので、友達とゆったり過ごしたり、ひとりで集中して遊んだりするものも用意しておく。
年齢別研修	テーマ 「すこやかな育ち」 サブテーマ「保育の質の向上」 内容 「子供を尊重する保育」			
自己評価				